

from M

岸和田市郷土文化室(自然資料館(自然史担当)・郷土史担当・文化財担当)

平成 29 年 12 月 1 日

岸和田藩と地方財閥の格差

山岡邦章

我ながら妙なタイトルです。岸和田藩は江戸時代。地方財閥が成立するのは明治時代以降。同じ時間軸ではないので比較できる格差が生じるはずがないのです。1つの条件だけを除いて。その1つの条件にちょっと触れてみます。それは、お墓です。それも地元のお墓ではなく、高野山での状況です。

岸和田藩、岡部美濃守宣勝は従五位下で亡くなりました。岸和田岡部家における高野山の墓は一の橋のすぐ先にあります。大きさも岸和田の泉光寺にある本墓と変わりません。お墓の位置は、諸大名家中でも結構下のほうです。この位置とは、お大師さまが^{にゅうじょう}入定された場所に近いという意味です。従五位下の格式と、五万三千石ではこんなものでしょう。

しかし岡部家が岸和田を去ったあと、岸和田は寺田家が興隆し地方財閥化します。岸和田紡績をはじめその他綿紡績会社、寺田銀行、泉州銀行、ほかナンバー銀行や無尽などの金融の設立、岸和田紡績、岸和田煉瓦、そして南海電気鉄道、他紡績系軽工業、ほとんどの大株主であり、明治時代後期の全国富豪ランキングで13位に入ったこともある家です。ちなみにこの時の1位は紀州徳川伯爵家でした。

その寺田家の墓がどこにあるかご存知ですか。お大師さまの入定された奥の院の前の川を渡ったところ、つまり、お大師さまのおひざ元にあるのです。しかも写真のように、十三重の石塔で、あきれるほど立派です。お墓は、お大師様のおひざ元に近ければ近いほど、値段は高いと考えていいでしょう。実はあの仙台伊達家、加賀前田家よりもお大師さまに近いところにあるのです。

岸和田は城下町だといわれています。確かにその一面も残っています。しかし、明治時代以降は寺田家



高野山の岡部家墓所(上)と寺田家墓所(下)

の城下町であり、今見える現在の岸和田の町は、寺田家が形作ったものといえるのです。

お墓はある意味残酷です。弥生時代～古墳時代、そして現代まで、死してその格差を物語る証拠としてはっきり残ります。あまり知られていませんが、大大名をも軽く凌ぐ泉州寺田家の実力はすごかったです。

(やまおかくにあき：郷土文化室)

自然資料館の1階がアンモナイトだらけに…… —2017年度特別展のご案内—

渡辺克典

10月14日(土)から12月24日(日)まで、自然資料館では特別展「アンモナイトがいっぱい」を開催しています。会場は入口から出口まで、まさにアンモナイトだらけです。もともと地球の歴史や化石が好きな方はもちろんですが、地学や生物進化の話題がちょっと苦手という方にも、アンモナイトの化石に親しんでいただけるような展示をめざしましたので、紙面をお借りして少し紹介させていただきます。

1. 「示準化石」だけじゃないアンモナイトの話題

アンモナイトと聞いて連想するのは、やはり地質時代の決め手となる示準化石だということでしょう。大学受験や教採で解答となっていることが多い示準化石の代表格ともいえるアンモナイトですが、じゃあほかにはどんな話題があるの?というところ……。

導入部では、そのあたりの話題をいろいろと盛り込んでいます。体の構造、食事、化石の色のちがい、化石発見から

標本になるまで、などなどアンモナイトにまつわる話を

あれこれ、実物化石を見ながら知ることができます(図1)。

2. 初公開ものがたくさん!日本のジュラ紀アンモナイト

日本国内では中生代白亜紀のアンモナイト化石が多く見つかっていて、古くから世界的にも注目をあびてきましたが、最近ではジュラ紀のアンモナイト化石も、すごい発見が続いています。保存状態では白亜紀のアンモナイトに見劣りするかもしれませんが、そもそも日本からは発見されないだろう、と誰もがあきらめていたような素晴らしい化石たちが、おもにアマチュア研究家の手によって採集されているのです。今回展示している30点あまりの日本産ジュラ紀アンモナイトたちは、博物館で展示されるのが初めての標本もたくさんあります。



図1. 実物化石にさわられる導入部



図2. 和泉層群の異常巻きアンモナイト

3. 美しい日本の白亜紀アンモナイト

日本のアンモナイト化石といえば、北海道が本場といわれます。そのくらい北海道産の白亜紀アンモナイト化石は有名です。今回の特別展でも、これら北海道産の美しいアンモナイト化石たちを展示しています。同時に、西日本の白亜紀層から見つかるアンモナイト化石も、北海道の化石たちに負けないくらい集めてみました。特に泉州地域とも関係が深い和泉層群のアンモナイトは、本に載ったことがある有名な化石、逆に博物館としては初めて展示される化石など、見どころが多いと思います(図2)。

4. アンモナイト化石は47都道府県で見つかるのか？—AMN47のセンターは誰だ？—

日本列島はアンモナイトたちが完全に絶滅してから約5,000万年後にできました。日本列島を形づくる大きなブロック(付加体といいます)はアンモナイトたちが生きていた時代にも、また絶滅してからも、プレートに運ばれて動き続けてきたのです。それらが集まってできた日本列島は、つぎはぎのようにいろいろな時代の地層の塊が分布しています。古生代後半から中生代の最後、つまりアンモナイトが絶滅する時代を経て、さらに新しい新生代の地層も多く見られます。そのため、見つかる化石の絶対数は少ないとはいえ、小さな島国の中で初期のアンモナイトから絶滅直前のアンモナイトまで、それぞれの時代の化石が見つかる、世界的にも珍しい地域といえます。今回の展示では、そういった新旧のアンモナイト化石たちを、日本地図に沿って並べてみました。

5. アンモナイトをめぐる生きものたち

アンモナイト類も、古生代後半から中生代の最後にかけて、海の野生動物の一群として大きな位置を占めていたと考えられます。したがって、さまざまな生きものとは食べたり食べられたりの関係にありました。顎器や歯舌など、食べるための器官も一部が化石として残っていることがあります。それらの形態からイカやタコなど現生頭足類とよく似た食生活をしていたことが想像できます。いっぽう、大型の魚類や海棲爬虫類(首長竜類やモササウルス類など)にとっては重要な食糧であったと思われます。

6. 学校のアンモナイト

締めくくりは、学校で保管されていたアンモナイト化石の展示です。岸和田市内をはじめ大阪南部の学校では、ときどき和泉山脈から発見されたアンモナイト化石が置かれているのを見ることがあります。これらの中には学術的にたいへん貴重なものもふくまれています。学校でずっと大切に保管されていれば、それはそれで意味があるのですが、理科室の引っ越しや校舎の取り壊しにともない、捨てられてしまう化石も多いと聞きます。化石は不完全な形だったり、岩石からの取り出しが途中だったりすると、どんな生きもののどんな部分かわからず、ただの石の塊にしか見えないことも多々あります。これはもしかしたら貴重な化石では？と思うようなものが学校にあれば、自然資料館にご連絡いただきたいと思います。

というふうに、展示紹介の最後が先生方へのご協力お願いになってしまいましたが、見学に来られる方々と館スタッフの距離が近いのが、自然資料館のウリです。会場でのご質問などありましたら、展示に関わったスタッフが不在のときは後日になりますが、必ずお返事いたしますので、お気軽にお声がけください。みなさまのご来場を心からお待ちいたします。

(わたなべかつのり：自然資料館専門員・大阪市立自然史博物館外来研究員)

Information

自然資料館の行事

●特別展「アンモナイトがいっぱい」

日本各地で採集された、さまざまなアンモナイトの化石を紹介し、その進化や生態などに迫るとともにアンモナイト化石から分かる、日本列島の歴史についても解説しています。

日時：2017年10月14日（土）～12月24日（日）

10:00～17:00（入館は16時まで）

・毎週月曜日・11月24日・11月30日休館

場所：きしわだ自然資料館1階ホール（堺町6-5）

費用：高校生以上400円・中学生以下無料

※岸和田市内の小中学校および幼稚園・認可保育所には、本展の告知ポスターやチラシを送付した時に招待券2枚を同封しています。ご利用ください。

●自然資料館ミニ実習

日曜日と祝日、自然資料館では来館者を対象とした、工作や自然観察に関する行事を行っています。授業やクラブ活動で役立つ内容も多いです。おとなの方だけの参加も大歓迎です。

時間：14:00～16:00

定員：20名（保護者含む）

・12月17日は保護者1名に子ども1名の同伴が必要

対象：3歳以上（小学生以下は保護者同伴）

場所：きしわだ自然資料館2階ミニ実習コーナー

日程と内容

12月3日（日）クリスマスリースをつくろう

12月10日（日）モササウルスの折り紙を折ろう

12月17日（日）羊毛フェルトのスナネズミづくり

12月23日（祝）動くアンモナイト実習

1月7日（日）ドラえもんのだらえもんおもちや

1月8日（祝）わたしだけのオリジナル絵本づくり

1月14日（日）チョウゲンボウお絵かき講座

1月21日（日）チリメンモンスターをさがそう

1月28日（日）神於山の素材で工作しよう

2月4日（日）カワセミ木札づくり（材料費100円）

2月11日（祝）堺自然ふれあいの森のミニ実習

2月12日（月・振休）弥生文化博物館ミニ実習

2月18日（日）チリメンモンスターをさがそう

3月4日（日）まいぶんセンターのミニ実習

3月11日（日）バードセイバーをつくろう

3月18日（日）ビーズでゾエアをつくろう

3月21日（水・祝）チリメンモンスターをさがそう

3月25日（日）海藻おしば（材料費300円）

岸和田城の展示

●あつまれ！いきもの展

岡部文錦画「子犬図」など20点を展示します。

日時：2017年10月18日（水）～2018年2月18日

（日）10:00～17:00（入館は16時まで）・祝日除く月曜日・年末年始休館

場所：岸和田城天守閣2階展示室（岸城町）

費用：高校生以上300円・中学生以下無料

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方は忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
きしわだ自然資料館ホームページURL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>